

令和4年度文教・科学技術予算のポイント(概要)

- 小学校高学年の理科・算数等の教科における「教科担任制」の推進等を図るとともに、外部人材の活用等により教員が授業等に注力できる環境を整備。
- 国大運営費交付金について、教育研究の質の向上に向け、配分を見直し、メリハリを強化するとともに、大学の既存学部等の再編・拡充に向け先行的な取組を実施。
- 将来の学術研究を担う博士課程学生の処遇向上に向けた支援の拡充や、量子・AI・宇宙・半導体など国際競争の観点から重要な分野の研究開発を推進。

※内容や計数は精査中であり、今後、変更が生じる場合がある。

	令和3年度	令和4年度	差額 (伸び率)
文教及び科学振興費	5兆3,925億円	5兆3,901億円	▲24億円 (▲0.0%)
うち、文教関係費	4兆287億円	4兆114億円	▲173億円 (▲0.4%)
うち、科学技術振興費	1兆3,638億円	1兆3,788億円	+150億円 (+1.1%)
(参考)文部科学省予算	5兆2,980億円	5兆2,818億円	▲162億円 (▲0.3%)

令和4年度文教・科学技術予算のポイント(概要)

※デジタル庁計上予算は以下の当該項目の4年度予算額に含む。

義務教育費国庫負担金 [15,015億円](▲149億円)

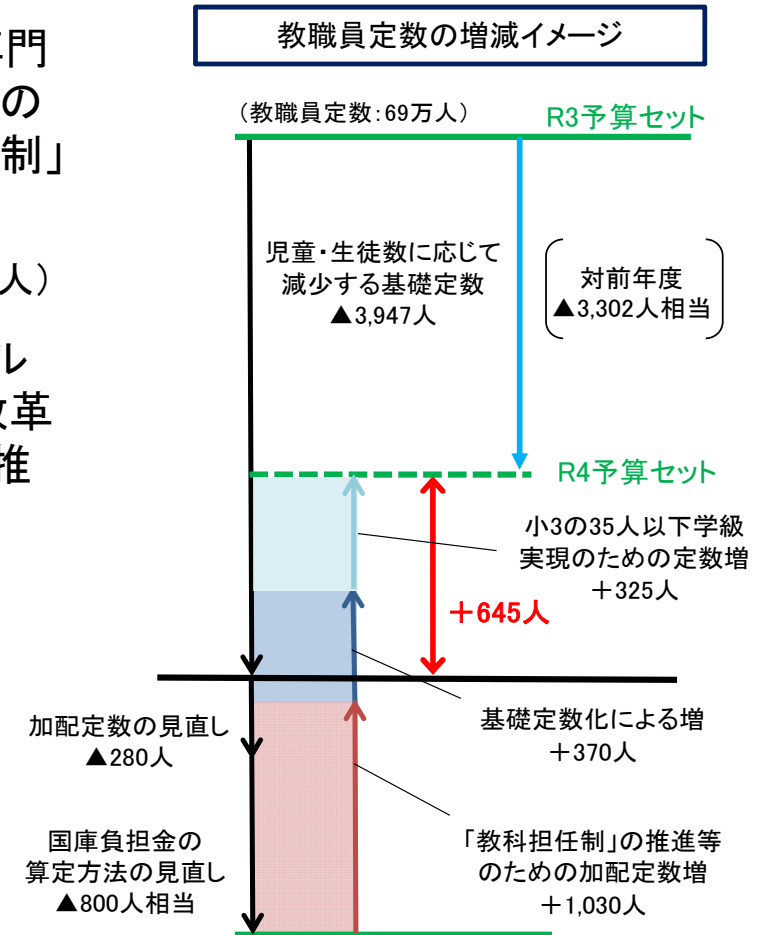
- 小学校高学年の理科・算数・体育・外国語の教科において、専門性の高い授業の実施により教育の質を向上させるため、担任間の授業交換や小中連携などの工夫を併せて行いつつ、「教科担任制」の推進等について必要となる1,030人の定数改善を措置。

(注)小学校3年生の35人以下学級実現のための定数改善も反映(+325人)

- 働き方改革の観点から、スクール・サポート・スタッフやスクールカウンセラー等の外部人材の配置を促進するとともに、働き方改革の取組や指標設定・効果検証を通じた効果的・効率的な配置を推進(別途174億円を計上)。

教育のデジタル化

- 学習者用デジタル教科書普及促進事業[23億円](+1億円)
令和6年度からのデジタル教科書の本格的な導入に向けて、令和3年度補正予算と合わせて全ての小・中学校等でデジタル教科書を活用し、課題や効果・影響等に関する実証等を実施。
- CBTシステム(MEXCBT)の拡充・活用促進[5億円](▲0億円)
文科省CBTシステム(MEXCBT)を、希望する全国の児童生徒等が、オンライン上で学習・アセスメントできる公的なCBTプラットフォームとして提供するとともに、MEXCBTの解答結果等を活用し、教育データの標準化や分析等を実施し、政策・実践を改善する仕組みの構築を推進。



令和4年度文教・科学技術予算のポイント(概要)

国立大学法人運営費交付金 [10,786億円] (▲4億円)

○ 運営費交付金について、教育・研究の質を高めるため、改革のインセンティブとなるようメリハリを強化。

①「成果を中心とする実績状況に基づく配分」について、増減率を±20%から、原則±25%、一部±30%に拡大するとともに、指標について以下の見直し。

	主な指標	見直しの概要	配分類(億円)
教育系	就職・進学等の状況、博士号授与、教育改革	博士課程教育の質改善に関する指標(※1)を追加	155 (+35)
研究系	若手研究者比率、科研費獲得実績	実績に加え、伸び率を追加	470 (+15)
経営系	人事給与マネジメント、会計マネジメント等	インプット指標の一部(※2)を廃止	375 (▲50)

※1 社会で広く活用できる汎用的なスキル等を身につけるプログラムの実施状況、就職・進学等の状況と追跡調査の実施状況等

※2 全学統一的な教員の業績評価の実施状況、学部・研究科等ごとのセグメント情報の開示状況等

②学部再編等の各大学の意欲的な教育研究組織の整備に関する取組の支援を抜本的に強化。

・配分類を大幅に増加(10億円弱⇒83億円)させるとともに、組織改革に関するKPIに加えて、組織改革を通じて実現する教育・研究上の成果についてのKPIを設定し、中間評価を実施するなどの見直しも実施。

○ 令和3年度まで措置していた特殊要因経費の一部(高濃度PCB廃棄物処理経費)が剥落する一方、教育研究の充実を図るため、基幹経費を拡充。

地域活性化人材育成事業 (SPARC) [15億円](新規)

○ 大学の既存学部等の再編・拡充に向けた先行的な取組として、将来的な学部等の再編も視野に、例えば、国公立の大学間で連携し、複数大学で自然科学の連携開設科目を設けるなど、前向きに改革に取り組む大学を支援。

令和4年度文教・科学技術予算のポイント(概要)

科学技術予算(科学技術・学術政策局、研究振興局、研究開発局) [9,777億円](+9億円)

研究力向上に向けた人材育成・研究費支援

研究力の基盤を強化する観点から、博士課程学生への支援を充実するとともに、研究者の自由な発想に基づく研究を支援する科研費において、研究活動の国際化の取組を促す政策誘導を強化。

- 博士後期課程学生の処遇向上と研究環境確保[34億円](+11億円)
 - 博士課程学生に対する経済的支援を充実。(令和3年度比 +約1,000人)
- 科学研究費助成事業(科研費) [2,377億円](同額)

量子・AI・次世代半導体など重点分野の研究の戦略的推進

量子、AI、次世代半導体など、国際競争の観点からも重要な分野の研究開発を推進。

- 光・量子飛躍フラッグシッププログラム(Q-LEAP) [37億円](+2億円)
- AI等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業[10億円](新規)
- 次世代半導体創生拠点形成事業 [9億円](新規)

大型プロジェクトの推進

宇宙基本計画等を踏まえた国際宇宙探査「アルテミス計画」や宇宙科学・探査に向けた衛星の研究開発、北極域研究等を推進するとともに、先端的な大型研究施設・設備を整備。

- 宇宙・航空分野の研究開発の推進[1,558億円](▲18億円)
 - アルテミス計画に向けた研究開発等
 - H3ロケットや宇宙科学・探査衛星の開発
- 北極域研究の戦略的推進[47億円](+31億円)
- 官民地域パートナーシップによる次世代放射光施設の整備の推進[22億円](+10億円)
- ポスト「富岳」の次世代計算基盤に向けた先行調査研究[4億円](新規)

令和4年度文教・科学技術予算のポイント(概要)

スポーツ関係予算 [355億円](+1億円)

- 運動・スポーツ習慣化促進事業[3億円](+1億円)
 - 誰もが身近な地域で安全かつ効果的な健康づくりのための運動・スポーツを習慣的に実施するため、スポーツを通じた健康増進に資する地方公共団体の取組を支援。
- 競技団体の組織基盤強化支援事業[3億円](新規)
 - 強靱な組織基盤・経営基盤を確立するための競技団体の取組を支援することで、組織の持続的な成長に向けた競技団体の改革や自走を促進。

文化芸術関係予算 [1,076億円](+1億円)

- 文化芸術による創造性豊かな子供の育成[73億円](+3億円)
 - 小・中学校等において、実演芸術の巡回公演等を行い、文化芸術を鑑賞・体験する機会を提供する取組を推進。
- 国立文化施設の機能強化・整備[318億円](+6億円)
 - 文化観光の拠点である国立文化施設の機能の充実・強化、民間資金等の多様な収入源の確保を促進。